環境マネジメントシステム

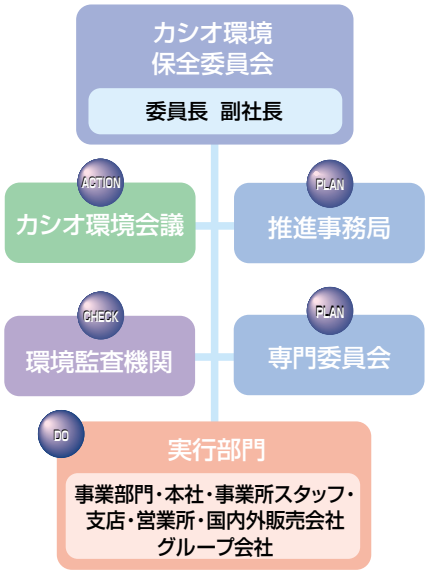
環境パフォーマンスを継続的に向上させていくために、
環境マネジメントシステムを構築し、Plan・Do・Check・Actionサイクルを運営しています。

環境マネジメントの考え方

カシオグループでは、右記のカシオ環境保全体制のもと、カシオ環境ボランタリープラン P11参照及び環境行動目標 P12参照によって、環境保全活動を推進しています。

推進事務局及び専門委員会による計画(Plan)、事業部門及び事業所における実行(Do)、環境監査機関における監査(Check)、環境会議における見直し(Action)により、環境保全の体制を確立しています。今後も継続して、企業の社会的責任を果たすべく環境保全に努めます。

カシオの環境保全体制



	役　割
カシオ環境会議	カシオグループ環境政策、行動目標の審議、決定 専門委員会及び実行部門の活動状況、環境動向等の情報交換
専門委員会	カシオグループ共通で取り組む戦略テーマを推進し、以下の4つの専門委員会で構成 ●包装専門委員会 ●グリーン調達専門委員会 ●グリーン商品開発会議 ●環境会計専門委員会
実行部門	環境保全活動の実施
推進事務局	カシオグループ環境政策、行動目標、保全ルールの企画
	国内外環境動向の情報提供
	カシオ環境保全委員会の運営
環境監査機関	環境保全活動の実行度を内部監査

環境教育

環境に配慮した活動が日常からできるよう、環境教育・啓発活動を推進しています。新入社員に対しては、配属前に環境一般教育を実施しています。その他、一般教育、専門教育により、一般社員、管理職、環境担当者など、階層別の社員研修を実施し、環境意識と知識レベルの向上を進めています。

一般教育では、全社員に環境問題、環境方針、目的・目標などの認識の徹底を行い、専門教育では、環境影響が大きい活動を行う従業員に正しい手順修得を徹底させています。また、環境法規制、ISO14001関連、カシオ環境ボランタリープラン、業界動向など環境に関する各種最新情報をカシオ環境会議(年2回開催)や社内HPで発信しています。このほか、社内報に環境活動の記事を掲載するなど、社員の意識向上とノウハウの共有化を進めています。

環境保全への取り組みと表彰制度

カシオ環境会議で、カシオグループの環境保全活動に関する方針・目標の策定及び進捗報告を行い、環境保全の向上に努めています。また2002年度の環境保全において、大きな成果を挙げた活動に対する表彰は下表の通りです。

表彰制度	運用範囲	内容	表彰サイクル	表彰案件
社長賞	カシオグループ	業務への取り組みの中で優れた業績や会社への貢献に対する表彰制度	2回/年	1件『日経環境経営度19位達成』によるIR活動への貢献
成果論文表彰制度 テクノパワー	カシオグループ	業務への取り組みの中で優れた特許や技術の先行性	1回/年	1件（奨励賞）『環境適合設計アセスメント評価ツール』の開発
改善提案制度	各生産拠点	環境保全において成果をあげた活動に対する表彰制度	2回/年	甲府カシオ：2件 『パソコン電源OFFアシスタントソフト作成及び導入』『廃材を利用してのベンチ作成』
エコボーナス制度	甲府カシオ	環境ボランティア活動に参加することに対する表彰制度	随時	表彰者総数：26名

カシオ環境会議における委員長の方針説明

用語解説

環境マネジメントシステム
企業が経営方針の中に環境に関する方針を取り入れ、Plan(計画策定)、Do(実施)、Check(監査)、Action(見直し)の手順で運用する一連の環境管理の取り組み及び経営資源のこと。ISO14001はその代表。

ISO14001
企業が環境負荷低減のための努力目標を設定し、そのための人材教育やシステム構築など、環境管理システムを構築するための要求事項が規定されている国際規格。

ISO14001の認証取得

カシオグループでは、環境マネジメントシステムを全員参加による環境経営実現のための仕組みととらえ、ISO14001の認証取得を推進してきました。

生産系主要拠点は、国内・海外ともに取得を完了し、システム及びパフォーマンスの継続的改善活動に移行しています。また、2002年度にカシオマイクロニクスにおいて、青梅（本社）と山梨事業所を統合した認証を取得しています。

今後、国内外営業系の拠点にも認証取得を拡大し、全カシオグループでの環境保全体制の構築に向け、推進いたします。

ISO14001認証取得事業所一覧　2003年4月現在

国内事業所	認証取得年月
山形カシオ（株）	1997年11月
甲府カシオ（株）	1998年 1月
高知カシオ（株）	1998年 3月
カシオ電子工業（株）	1999年 9月
カシオサポートシステム（株）	2000年 1月
カシオマイクロニクス（株）	2000年 3月
カシオ計算機（株）東京事業所	2000年 6月
カシオ計算機（株）羽村技術センター	2000年10月
カシオ計算機（株）八王子研究所	2000年10月
カシオ計算機（株）本社	2000年12月
カシオソフト（株）	2001年12月
カシオテクノ（株）	2002年 5月

海外事業所	認証取得年月
韓国カシオ	1998年 4月
香港カシオ 番禺工場	1999年 9月
香港カシオ	1999年12月
カシオ電子（珠海）有限公司	2000年 9月
朝日エレクトロニクスインドネシア	2001年 2月
カシオタイ	2001年 9月
台湾カシオ	2001年12月
カシオ電子（深圳）有限公司	2002年 2月
カシオ電子（中山）有限公司	2002年 4月

リスクマネジメント

カシオグループは、国内事業所・国内外主要拠点でISO14001認証を取得し、その規範に沿った組織体制のほか、リスクマネジメントシステムを構築し、緊急事態対応訓練、有害物質使用削減活動など、環境汚染予防を徹底しています。

高知カシオでは、薬液を供給する配管は二重配管とし、1階床下配管経路には防水加工セメントの敷設など、地中への浸透を防ぐ対策をしています。また、供給タンク等の設置に際しては防液堤を設け、万が一の漏れを想定して、対応訓練を年1回行うなど万全を期しています。

●環境に関する規制遵守の状況

2002年度カシオグループを含む全事業所において、環境関連に対する法令違反、罰金、科料、苦情、事故発生、訴訟はありませんでした。

年度	1998	1999	2000	2001	2002
件数	0	0	0	0	0
金額	0	0	0	0	0

●PCB含有機器等の保管

PCB含有機器等については、全社で19個の高圧コンデンサー、258個の小型安定器を厳重保管しています。現在、最適な無害化処理計画を策定中です。

●土壌汚染の状況

現在における土壌汚染対策法及び東京都の環境確保条例に基づく土壌汚染調査では、規定値を超える有害物質の検出はありませんでした。

●地下水

毎年定期的に地下水の水質検査を行っていますが、基準値を超えた有害物質は検出されていません。

●PRTR

PRTR法遵守に向け、各事業所ごとにマニュアルを作成しています。

該当物質ごとに排出量及び移動量を把握して、法規制に基づいた届出を行っています。P29参照

●有害大気汚染物質

経済産業省が1996年10月に定めた指針で管理対象とされた13物質※については、カシオグループでは使用していません。

※13物質　アクリロニトリル、アセトアルデヒド、塩化ビニルモノマー、クロロホルム、1,2-ジクロロエタン、ジクロロメタン、テトラクロロエチレン、トリクロロエチレン、1,3-ブタジエン、ベンゼン、ホルムアルデヒド、二硫化三ニッケル、硫酸ニッケル

●代替フロン

カシオグループでは、2001年度に使用を廃止していますが、協力工場においてHCFC-141bを使用しています。このHCFC-141bも2004年末までには廃止する計画です。

用語解説

PCB
電気製品の絶縁体、コンデンサー・変圧器の熱媒などに使用されていたポリ塩化ビフェニールのこと。生物の生殖機能等をかく乱させる可能性のある「環境ホルモン（外因性内分泌かく乱化学物質）」と呼ばれている。

PRTR
Pollutant Release and Transfer Registerの略。人の健康や生態系に有害なおそれがある化学物質について、国が事業者の報告により、大気、水、土壌への排出量及び移動量を集計し公表する制度のこと。